

全国大会団体準優勝・個人第5位 東北大会団体優勝・個人優勝への道のり



全国大会準優勝を果たして！

第36回東北中学校ソフトテニス大会

日時 平成20年8月9日(土) 個人戦 **諸橋・佐藤組優勝**
平成20年8月10日(日) 団体戦 **優勝**

会場 福島県白河市 しらさかの森スポーツ公園テニスコート

第39回全国中学校ソフトテニス大会

日時 平成20年8月19日(火) 個人戦 **諸橋・佐藤組第5位**
平成20年8月20日(水) 団体戦 **準優勝**

会場 富山県高岡市 高岡スポーツコア高岡市テニスコート

東北大会団体優勝・個人優勝

平成20年度の東北中学校ソフトテニス大会において、鶴岡第三中学校として初めて団体・個人優勝を果たしました。本当におめでとう。選手はもちろんですが、保護者、コーチ、卒業生その他多くのお世話になった方々のがんばりに感謝したいと思います。ここに、団体・個人に至る経過を載せながら、振り返ってみたいと思います。



今回の優勝には多くのポイントがあります。

1 卒業生のがんばり

鶴岡三中の卒業生(特に平成15年度卒業生から)のがんばりがあります。この五年間で、東北大会団体3位入賞2回、全国大会個人出場3組、都道府県大会県代表5組、カワサキ杯5位1回、3位2回、東北中学校インドア大会優勝三連覇、2位1回と東北はもちろん、東日本においても一目置かれる学校になっています。そのがんばりが、今回の団体優勝に大きく関係していると思います。

また、遠征や各大会への参加も、今までの卒業生がつくってくれた道をたどっています。これも大きなことです。

2 前衛のがんばり

後衛ももちろんがんばっていいボールを打っていましたが、なんといっても前衛の力が他の学校を引き離していると思いました。それも、3組ともです。特にネットプレーのポイントが一番多かったのではないのでしょうか。ミスもありましたが、それを上回るポイント(ポジション)があり、相手後衛に大きなプレッシャーを与えていたと思います。

団体戦全ての試合の前衛のポイント率を計算したところ、鶴3前衛は65.3%で対戦校の前衛のポイント率は47.5%と圧倒的に上回っていました。

3 サーブ力

大会後に多くの先生からサーブがよく入っていたということを聞きました。現在取り組んでいるサーブがかなり有効に入っていました。サーブの強化が実ったということだと思います。

団体戦全ての試合のファーストサーブ率は64%で対戦校は56%でした。大会を通して6名の平均が64%はかなり高い確率と思います。

4 それぞれが自分の仕事をしっかりとしてくれた

団体戦では全勝ペアはいません。しかし結果優勝です。これは、自分たちの仕事をしっかりと果たした結果です。一番手が負けても残りが勝つ、二番手が負けても残りが勝つ、三番手が負けても残りが勝つ、まさに団体の勝利です。

5 県大会後の練習が充実していた

東北大会に向けて、気を抜かずさらに練習が充実していました。中体連の合宿(2泊3日)を終わると福島(西郷1中、杉戸中等と)宮城(常磐木高校)遠征、その後は立川のテニスコートで3日間びっちり基本を中心に練習を行い東北大会に出発できました。最後までしっかり練習できたことで、いい状態で東北大会に臨むことができたと思います。

6 コーチ、保護者、顧問が一体となった体制

コーチとは五年間ずっと一緒にやってきましたし、試合の進め方や技術指導、生活指導など全てについて同じ方針で生徒に当たることができました。また、遠征や大会等の交通等全て保護者会が万全の体制をとってもらいました。急な変更やお願いにも素早く対応してもらい、こちらが生徒の指導に専念できたことが何よりでした。さらに、練習内容や指導内容には一切口を出さず、見守っていただいたことも大きなことと思います。

それでは、それぞれの試合を振り返ってみます。

第1試合 対山王（秋田） 2 - 1

新チームになってから三連敗、一度も勝っていない対戦で、決勝と同じ気持ちで向かいました。しかし、都道府県大会で山形選抜が秋田選抜に勝っていることや昨年度のチームは一度も負けていないことから、かなり相手にプレッシャーがあっと思います。そして、3 2 1のオーダーです。これで上二つが負ければ監督・コーチの責任でした。しかし、見事に応えてくれました。特に、第3試合の諸橋・佐藤は都道府県大会では勝っているものの二県下大会では負けています。この試合はファイナルにもつれましたが、里美のプレーに安定感があり見事に接戦を勝ちました。

第2試合 対西郷一（福島） 2 - 1

相手の裏をかいたつもりの3 2 1のオーダーに対して西郷一は2 1 3のオーダーで、完全にオーダー負けでした。第1試合が全てでしたが、上野・小澤が見事に4 - 2で勝ち、勝負ありでした。相手は前日の個人戦で諸橋・佐藤に接戦をしていたペアでしたが、プレッシャーで力を出せなかったところに、雪乃のポジションとネットプレーが光っていました。

準決勝 対金ヶ崎（岩手） 2 - 0

準決勝は長命ヶ丘がくると思い、大変オーダーに悩んでいました。一番手を外されると苦しいと思っていたからです。しかし、三つどもえで金ヶ崎に決まり、まず普通のオーダーで十分に勝ると踏み、3 1 2のオーダーでした。相手は力はまずまずと思いましたが、東北大会初出場でしかもまさかの準決勝進出、力を出し切れなかったようです。試合の最初に少し競りましたが、徐々に引き離す万全の試合運びでした。

決勝 対山形二（山形） 2 - 1

新チームになってから三連敗、いつもお互いに一番手がとっての三番勝負で負けていました。ここは今までの借りを返す最後のチャンス、オーダーを1 3 2に変え全てを生徒に託しました。相手も1 3 2のガチンコ勝負となりました。諸橋・佐藤对小野・佐藤の試合は前日の個人戦で負けた分、小野・佐藤の方が強気で攻め、諸橋・佐藤は受け身に回った分ミスが出ました。2 - 4で負け、第2試合は実績からいえば井澤・秋葉が上でしたが、実咲のストロークが後半よくなり、雪乃のネットプレーが全てでした。見事に自分の仕事を果たしてくれ、四度目の三番勝負となりました。県大会ではいいところなく0 - 4で負けていましたが、今回は常に1ゲーム先行しながらファイナルへ。ここで、かすみのファーストがはいり攻めのプレーで6 - 1、ここから二本伶未音のボレーミスが出ましたが、最後まで強気で動くことができ、7 - 3で決めてくれました。

今大会を振り返り、二度とできない試合と思いますが、鶴岡3中の伝統である最後まであきらめずがんばって勝つことができたことが何よりです。

今回はその集大成のような大会でした。しかも、ジュニアからやってきた生徒が3名、中学から始めた生徒が3名です。中学から初めても、始めはいくら負けていてもがんばっていけば勝つことがあるという見本を見せてくれました。

これは、多くの学校の生徒に勇気を与えることだと思います。そのためにも、毎日の練習はもちろん、勉強や挨拶やいろいろなことにがんばること、勝つ資格を身につけることが大事であることも証明してくれました。

これは、勝ったからというわけではありません。去年のチームも負けましたが、それやってきたので、今の高校生活をしっかりとできているのだと思います。

今回は、今までの分まで勝ってくれただけです。これは、鶴岡3中の全て結果だと思います。ですから、多くの人に感謝しましょう。また、敗れた学校、生徒のみんなにも感謝しましょう。その心を忘れずに、これからもがんばってほしいと思います。



全国大会団体準優勝・個人5位

東北大会を見事に勝ち上がり、初の団体での全国大会出場。最後の夏を全中で終わることができ、また、このチャンスをものにできるよう、最後の練習に励みました。東北大会前と同じように、しっかりと練習をすることができたと思います。

東北大会後に休養を2日間とり、8/13~15と城北高校の合宿に参加し、8/16富山に出発、8/17午前は地元代表の吉江中と練習試合、午後は公式練習、8/18午前は大宇陀中途練習試合、午後は千代田女学院、杉戸、山王、鶴1と練習試合と最後まで気を抜かずにできました。全国大会へも気をわず、普段通りの状態で迎えることができました。

8 / 1 9 個人戦

1, 2回戦はいつも通りの試合ができますまずまずのスコアで快勝、3回戦は対戦がある群馬館林第1の奥山・川島組。前衛がの両手バックの変則で動きがあるので、苦戦が予想された通りファイナルになり、ボールカウント4-6と2本マッチをとられました。しかし、ここから粘りデュース、お互いに何度もマッチポイントを取りながら決められず、2度目のマッチポイントで勝ちました。

準々決勝はそれこそ何十回も対戦してる杉戸中の山納・根岸組の2年生ペア。試合の序盤、のびのび打つ相手に対して緊張からかそれまでにはないミスもあり、ゲームカウント1-3。ここから挽回し、後1本決めればファイナルに持って行けるところでしたが、相手の強気なプレーで残念ながら2-4で敗退しました。山納・根岸組はその後勝ち進み見事に優勝でした。

諸橋・佐藤組も全国大会個人戦第5位とよく健闘しました。これが、次の日の団体戦につながったことと思います。



8 / 20 団体戦



朝の練習で、城北高校の鈴木先生の計らいで、高岡商業高校のテニスコートをお借りできました。ありがとうございました。

団体戦は16チームで争われますが、この舞台に立つだけでも大変なことだと改めて思いました。

そして、今までの練習の成果を出す最後の舞台として大会に臨みました。

1回戦 対光陵(北海道) 3 - 0

向こうが123のオーダーに対してこちらは312でした。第1試合は全国大会初めての試合で緊張したようですが、徐々にいつものペースになり競りながらも相手1番手に4 - 2で勝ち勢をつけてくれました。第2, 第3試合は落ち着いて試合を進め4 - 0、4 - 0の快勝で準々決勝進出を果たしました。

準々決勝 対日南(鳥取) 2 - 1

第1シードで、中国ブロック大会では就実を破る全国大会の常連校でした。オーダーは向こうが123に対してこちらは312でした。第1試合はさすがに相手1番手に刃が立たず0 - 4負け、第2試合は相手も個人戦でベスト8に入っており競るかと思いましたが逆にしっかりした試合運びで4 - 1勝ちとなり、3番勝負となりました。相手はダブル後衛で、初戦も接戦を勝っている組でした。序盤は風も強くミスも出ましたが、徐々に伶未音が上を押さえミスを誘いかすみのライジングでリードし、見事に4 - 2勝ちを収めました。



準決勝 対加木屋(愛知) 2 - 0

加木屋は準々決勝を昭和学院と激しい撃ち合いの末勝って乗っていました。オーダーは前の試合とお互いに同じオーダーとなりました。第1試合は風を上手く使い、相手のミスを誘ってリードを広げ4 - 2の勝ち。第2試合は打ち合いが予想されましたが、相手が焦ったのミスを続け4 - 0の快勝となり、うれしい決勝進出となりました。

決勝 対就実(岡山) 0 - 2

全国の中学生の中で一番最後の試合に出ることだけでも大変すごいことでした。最後の試合のオーダーはいろいろ考えましたが、二人の結論は今まで通りの312でした。結果的には外れてしまいましたが、最後まで頑張りました。第1試合は今までで一番緊張したようです。コートの中にいる生徒で中学校から始めたのはたぶん鶴3の3名だけです。しかも第1試合で、負けはしましたが最後まで頑張りました。第2試合の1番手どうしの試合は、相手が一枚上手でした。今まで通用したボールが止められ、ミスも少ないプレーに1 - 4で敗退し、0 - 2で全中が終わりました。しかし、東北勢では20年ぶりの決勝進出となり、また、西郷一中以外では初めてのことです。東北代表として胸を張ることができる結果だと思います。

最後に、東北大会のまとめでも書きましたが、本当に多くの生徒、保護者、関係者の方々ののおかげで全国大会団体準優勝・個人第5位という素晴らしい成績を残すことができたのだと思います。その感謝を忘れずに、また、この成績におごらずに、これから自分の進む道に努力していってほしいと願います。本当にありがとうございました。



附 録

新潟市巻東中学校の大屋先生のメルマより

8月21日付けの日経新聞の夕刊に以下のようなコラムが載っていました。記憶を頼りに書いているので、語尾やニュアンスは違うところがあるかもしれません。

トップアスリートは良く、あの人は才能が違うとかという話をよく聞くが、オリンピックで活躍する選手や将棋、囲碁などのプロの中でも一流と呼ばれる人たちには共通項がある。それは10、000時間という共通項。ある時期、その競技や種目に集中して10、000時間費やした経験を持っているというのだ。
一日3時間練習をしたとして、1年で約1、000時間。それを10年間続けられないといけない。

という内容です。もちろんこれは中学生の話ではありません。しかし、このことと、今回全中で大活躍した女子山形鶴岡第三中学校（女子団体2位）と杉戸中学校（女子個人優勝）の共通項を以下に記したいと思います。

1 中学生でソフトテニスを始めると

鶴岡第三中学校の団体メンバー6名の内、半分の3名はジュニアでは無く中学生から始めた選手たちです。

中学生からソフトテニスを始めて全中まで2年4ヶ月、いったいどれくらいの時間が練習できるでしょうか？

1日3時間やったとして、1年間でやっぱり1000時間。全中まで2400時間。これが、中学生での限界でしょうか？

ジュニアからやっている選手は、その時間は、その何倍にもなる可能性があります。

でも集中してやっているかどうか、熱中しているかどうかが問題になると思います。

2 遠征と試合を繰り返すと

杉戸も鶴岡第三中も遠征や大会、練習試合には頻繁に出かけていました。

この時間は2400時間にさらにプラスされると考えると、だいたい3000時間ほどの計算になるのではないかと思います。2年4ヶ月行う時間としては、限界なのかと思います。

実は、この全中の1ヶ月前以内の間に、杉戸と鶴岡第三中学校と練習試合の中で見せていただく機会がありました。

双方のチームとも共通していることは、こういった遠征や練習試合などでは、徹底してこだわりをもってやっているということと、選手は一戦一戦、とにかく集中して取り組んでいることが見て取れました。

3 外部コーチの登用

全中個人戦決勝戦のベンチには杉戸中は外部コーチの方が入っていました。

杉戸中は、顧問の先生（教員）が中心になってがんばっているチームです。

外部コーチの人は、杉戸のジュニアを教えている人で、指導力のある方です。

練習試合等にも帯同して、指導をしている姿も見ました。

外部コーチの登用というのは、顧問がソフトテニスに対し通じていればいるほど登用しづらいものです。そこを登用して、良い方向に導いていることに感心します。

全中団体戦の鶴岡第三中学校のベンチも外部コーチの方でした。

鶴岡第三中学校は、指導力のある顧問の先生がこの春に転勤されました。

そこから外部コーチの登用だったら、今回の結果はどうなっていたかわかりませんが、前の顧問の先生の時代から、この外部コーチの方はチームに深く関わってこられました。

この二校にはともに外部コーチという存在がいるというだけでなく、指導力のある顧問の先生がいることに加え、外部コーチがいるということです。

そして、その相乗効果が良い方へ向かった結果が今回の全中だったのかもしれませんが。

4 試合巧者の二校

双方とも、試合をたくさんこなしてきているせいもありますが、試合巧者です。

遠征などに行くと、雨が降っても、暗くなっても、いつまでもいつまでも試合を繰り返し行っています。

もちろんそれだけではないのですが、様々な条件や状況でも試合を行ってきた、たまものが今回の全中だったように思えてしょうがありません。

3、000時間、この数字、意外にも中学生のスポーツの世界では的を得た数字なのかもしれませんが。それでも必死にやって、やっと3000時間です。10、000時間にはまだまだです。一流になることは大変なことだと改めて気づかされます。

指導者もこの10、000時間をこなすことによって、指導力もやっと一流なのかもしれません。それでもただ10、000時間ではなくて夢中でないといけません。大変です。

発行元

中学生ソフトテニス顧問のHP

管理者 OYA

鶴岡市立鶴岡第三中学校女子ソフトテニス部メンバー

監督 五十嵐 渚 外部指導者 木村 博之・渡邊 悦夫

1	諸橋 花奈	佐藤 里美
2	菅原かすみ	上林 伶未音
3	上野 美咲	小澤 雪乃
4	諸橋 芽衣	結城 聖愛

平成15～19年度顧問 大津 幸造